

# 罪人を救うために

2022年12月18日

ルカの福音書 2章1～20節  
テモテへの手紙I 1章15節

序：イエス・キリストの降誕（マタイ、ルカ、ヨハネ）

ルカは医者・歴史家・異邦人

人類の歴史の中で起きたこと = 神は歴史の主、イエス。キリストが中心

HISTORY=HIS STORY

B.C. = Before Christ A.D. = Anno Domini

I. 時代背景 B.C.6~7年

(1)当時の支配者

皇帝アウグストゥス

シリアの総督 キリニウス

(2)住民登録

納税、兵役 / 世帯ごと / 十四年ごと

どこに住んでいても本籍地で行う

II. 預言の成就

(1)処女降誕（男の子）：身重になっていたいなずけの妻マリヤ

(2)ダビデの子孫（ヨセフもマリヤもダビデの家系・血筋）

(3)ダビデの町＝ベツレヘムで生まれる

臨月の妊婦がナザレ ⇒ ベツレヘムへの危険な旅（皇帝の勅令）

そこにいる間に

出産そのものは自然

(4)貧しく、低く：主イエス・キリストの謙卑

神が人となって

貧しい親

生まれた場所＝家畜の避難所（洞窟、石の飼葉桶）

普通旅人が泊まる場所がなかった

III. 主イエス・キリスト降誕の証人＝ベツレヘムの羊飼いたち

ダビデもベツレヘムの羊飼いだっただけ ⇒ 統一イスラエル国の王

パンの家

イエスも神の民の王

イエス＝天からくだったいのちのパン

(1) 仕事（羊の夜番）中

(2) しるし

①主の栄光が照らした ⇒ 大きな驚愕・恐れ

②御使いの告知 = 救い主のお生まれ、大いなる喜びの知らせ  
主、キリスト

きょう  
ダビデの町で  
布にくるまって飼葉桶に寝ている生まれたばかりの赤児

③天の軍勢の神賛美  
神（インエクセルシス デオ）に栄光  
地（みこころにかなう人々）に平和

(3) 行動

- ①知らされた出来事を信じた
- ②仲間もいっしょに急いで出かけた
- ③捜し当てた（マリア、ヨセフ、飼葉桶に寝かされている赤児のイエス）
- ④幼児について知らされたことを証した  
聞いた人達は驚き、マリアは思いを巡らせていた
- ⑤神を賛美しながら、持ち場に帰って行った

IV. 降誕の目的

罪人を救うため

- ①罪（神への反逆）とその結果である死（霊的死・肉体の死・永遠の死）の解決
- ②永遠に神とともに御国に住まう（神の子・キリストの花嫁として）ため

V. だれが救いにあずかるのか

- (1)神の選び エペソ 1・4
- (2)イエス・キリストの贖いの恵み ペテロ I 2・21～25
- (3)聖霊の導きによる信仰 ヨハネ 1・13

VI. 救われた者はどう生きるのか

- (1)信じた者の内には聖霊が住んでおられる  
その導きに従い、聖霊に満たされるように
- (2)みことばを基準に、神が望んでおられる御心を知って従う
- (3)この福音を、救い主を他の人に紹介する
- (4)再臨される主イエス・キリストを待ち望む ヘブル 9・27～28